自転車共同利用実験「Porocle（ポロクル）」

◆『自転車共同利用実験』とは？

自転車に乗りたいときに、どこでも借りられて、どこに返しても良い。そういう自転車があるといいなと思いませんか？

「街の中では自転車を停める場所がない」「駅周辺の駐輪場はいつも一杯」「放置自転車が地域の景観を阻害している」など、札幌市内でも自転車が乗り難い環境となっています。

私たちの生活は、環境負荷の大きい移動手段である自動車への依存が非常に高い状況にあります。世界の先端都市では、環境負荷の小さい公共交通機関や、新たな移動手段として、自転車を活用する街づくりが進められております。また、日本国内でも自治体が中心となり、様々なスタイルの自転車共同利用＝コミュニティサイクルの実証試験がなされています。

そこで北海道モビリティデザイン研究会では、平成21年9月～10月にかけて、札幌市内において、自由に自転車を借りたり、返すことができる『自転車共同利用実験（愛称：ポロクル）』を実施しました。

◆実験の概要

ポロクルでは、自転車の貸出・返却を無人化することを目的として、「ポート」と呼ばれる駐輪機を開発しました。利用には、携帯電話のおサイフケータイ機能を使用し、個人の認証を行うことで貸出・返却が可能です。

札幌都心部で行った実験は、環境省の「平成21年度都市型コミュニティサイクル社会実験」に選定されています。

【駅型実験】

新札幌駅周辺にお住まいの方と、札幌テクノパークなどの駅周辺の企業へお勤めの方々に、共同で自転車を利用していただく実験を行いました。

実験期間は、8月24日～9月11日までの19日間。

駅近郊の株式会社ドーコン敷地内に、50台の自転車を準備し、双方で1台の自転車を共同利用していただきました。

【都心部実験】

北海道大学、札幌駅、大通公園、札幌ファクトリーなどの主要箇所7箇所にポートを設置し、ポート間で自由に貸出・返却が可能な実験を行いました。

実験期間は、9月19日～9月30日までの12日間。

モニターは、1回30分までの利用制限で、何度でも自由に貸出・返却を行うことが可能であり、主に都心部の周遊移動を目的として、通勤・通学のほか、営業や買物、観光などに利用していただきました。

◆『ポロクル』の狙い

自転車共同利用実験は、以下の3つの視点で導入を目指しています。

①自動車からの転換による二酸化炭素排出量の削減、既存公共交通機関の利用促進。

②駐輪場問題の解消。コミュニティサイクルの提供による放置自転車の減少により都市景観の改善をはかる。

③コミュニティサイクルによる周遊性が向上することで、地域の商業施設と連携したまちの活性化。

これらの目的で、新札幌駅周辺と、札幌都心部の2つのエリアで実証実験を行いました。

ポロクルとは、「さっぽろ」と「サイクル」から作った愛称です。

◆北海道モビリティカフェ2009の開催

都心型実験の開始と合わせて、9月19、20日に「移動風景の再生」をテーマに、北海道モビリティカフェを開催しました。

sapporo55ビル1Fのインナーガーデンにて、ポロクルの紹介やモニターの募集、ポロクルを利用した観光ツアーの提案、有識者による講演を行うほか、北海道大学・東京大学の学生に、実際にポロクルを使ってもらい、与えられたテーマについて発表していただきました。

第1部『移動風景の再生』
・基調講演
　篠原　修（政策研究大学院大学教授）
　林　美香子（慶応義塾大学大学院教授）
・バトルトーク
　篠原　修 VS 羽藤　英二（東京大学准教授）
第2部『モビリティデザインの新しい潮流』
・パネルディスカッション
　パネリスト
　　南雲　勝志（ナグモデザイン事務所代表）
　　澤　充隆（株式会社ドーコン）
　コメンテーター
　　萩原　亨（北海道大学准教授）
　　林　美香子（慶応義塾大学大学院教授）
　コーディネーター
　　羽藤　英二（東京大学准教授）
第3部『札幌の移動風景に関する学生発表』
・事例紹介／有村　幹治（日本大学）
・発表／北大、東大生による3チーム

◆学生による公開ワークショップ

学生たちは、3チームに別れ、各々のテーマでポロクルを利用し、実際に走行した体験をまとめ、ワークショップを行いました。

テーマ①では、白石サイクリングロードの活用について、「主要施設を連結した格子状」「札幌を1周できる環状」の2つを組み合わせて街の魅力向上をはかること。サイクリングロードのデザインとして、植栽や地域参加型花壇の設置、交差橋梁のデザインコンペ、観光客と地域との区流を深めるなどの意見が出されました。

テーマ②では、ポロクルの将来展望として、札幌全体のコミュニティのプラットフォームとして活用すること。携帯電話を利用することに着目した、個人属性に合わせた広告配信サービスが提案されました。

テーマ③では、自転車という移動手段と観光を連携するため、「小時間ツアーの積み重ね」「徒歩と自転車観光の組合せ」「遠方ではバス・地下鉄との組合せ」をポイントとして、仮想ルートツアーを設定。実際に走行した体験を発表しました

ポロクルの利用にあたっては、「1回30分は観光目的の場合短い」「サドルの高さを調節できたほうが良い」「返却時の操作が難しい」「ポートの数が少ない。空きが少ない」などの改善点が提案されています。

また、札幌市内の自転車走行については、「路上駐車が多く車道を走行することが困難」「自転車用の案内看板がほしい」という意見が出されました。

◆実験の成果と今後の展望について

現在、実験にご協力いただいたモニターの方々にアンケートを回答していただいております。実際に導入した場合の価格設定や、ポート設備に関する改善事項、運営全体への問題点の把握など、アンケートの結果を踏まえて検討します。

中間集計結果では、概ね良好な評価をいただいており、盗難など実験期間中の大きなトラブルもありませんでした。ただし、貸出しの方法についてはいくつかの改良が必要であると判断しています。

皆様のご意見を取りまとめ、来年度も6月より札幌都心部において大規模な実証実験を行う予定です。数年後の事業化も視野に入れ、我々研究会は札幌にコミュニティサイクルを導入していく所存です。

北海道モビリティデザイン研究会』：東京大学・北海道大学・政策研究大学院大学ら有識者と、㈱ドーコン・NTTdocomo 北海道支社などによる産学研究グループ